

記号上の復興

エフェメラが形成する戦後東京像

「東京」が世界的に注目を浴びる中、そのアイデンティティや魅力について、世界に対し改めて発信する必要がある。しかし、ここに掲げられる「東京」は、多種多様な記号集合体であり、具体的なイメージに固定されたものではない。東京の渾然としたヴィジュアル・アイデンティティを捉えるべく、大学博物館では広範囲に亘る「東京」関連資料(エフェメラ)を新しい観点から分析してきた。「理想都市東京」と「東京の実相」を対照し、現在まで引き継がれているグラフィックデザインが、「東京」をいかに形付け、定型に纏め、時には美化し象徴化してきたか、これを具体例に基づきながら検証してきた。ここでは、戦後東京の復興を事例に、博物館学的な観点から見る東京像を紹介する。

■開催日

2018年5月31日(木)

■報告者

大澤 啓

東京大学総合研究博物館特任研究員

■開催時間

18時30分から20時30分まで

■司会

安孫子 信

法政大学江戸東京研究センター研究員・
文学部教授

■会場

法政大学市ヶ谷キャンパス
ポアソナードタワー25階B会議室

■使用言語

日本語

■入場料

無料、事前予約不要
(どなたでもご参加いただけます)

■問い合わせ先

法政大学江戸東京研究センター事務局
〒102-0073 東京都千代田区九段北3-2-3
九段校舎別館1F 国際日本学研究所内
Tel:03-3264-9682
E-mail: edotokyo-jimu@ml.hosei.ac.jp